

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人
宮崎 昭夫

あて名

〒 107-0052
東京都港区赤坂1丁目9番20号 第16興和ビル
8階

様

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
(PCT規則43の2.1)発送日
(日.月.年)

12.10.2004

出願人又は代理人
の書類記号 HT04P107A

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号 PCT/JP2004/008878 国際出願日 (日.月.年) 24.06.2004 優先日 (日.月.年) 25.06.2003

国際特許分類 (IPC) Int. C17 B60N3/04

出願人 (氏名又は名称)
林テレンプ株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- 第I欄 見解の基礎
 第II欄 優先権
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 第IV欄 発明の単一性の欠如
 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第VI欄 ある種の引用文献
 第VII欄 国際出願の不備
 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

21.09.2004

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

大山 広人

3R 3026

電話番号 03-3581-1101 内線 3384

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、
以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ 配列表

配列表に関連するテーブル

b. フォーマット 書面

コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 出願時の国際出願に含まれる

この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 指定意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1 - 6	有
	請求の範囲	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 1 - 6	有
	請求の範囲	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1 - 6	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明

文献1 : J P 8-238967 A (東亜紡織株式会社) 1996. 09. 17

文献2 : J P 11-139194 A (日産自動車株式会社) 1999. 05.
25

文献3 : J P 3028700 U (株式会社フジュー) 1996. 09. 13

文献4 : 日本国実用新案登録出願59-68548号 (日本国実用新案登録出願公開60-180643号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を記録したマイクロフィルム (日産自動車株式会社), 1985. 11. 30

文献1には、ポリエステルのレギュラー繊維にポリエステル系低融点繊維を混入し、ニードルパンチで形成したカーペットが記載されている。

文献2には、ポリエステル繊維にポリエステル系低融点繊維を混入し、繊維径が異なる複数の繊維を用いたことが記載されている。

文献3には、マットに熱可塑性樹脂シートを積層することが記載されている。

文献4には、色彩の異なるパイル層を積層し、一方のパイル層の一部を他方のパイル層から突出させて柄を形成することが記載されている。

そして、マットの厚さ、密度等および繊維の径、長さ、混入率等をどのようにするかは、当業者が、マットのクッション性、吸音性等を考慮して、適宜設計すべき事項と認められる。

そうしてみると、請求の範囲1ないし6に係る発明は、上記文献1ないし4に記載のものを組み合わせたものであって、この組み合わせは、当業者が容易に想到し得たと認められる。

第四欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 5 に記載の「ニードルパンチ不織体の他の部分を構成する纖維」とは、具体的にどの部分を指しているのか不明瞭である。